

まるごと馬場のぼる展 描いた つくった 楽しんだ ニャゴ!



『11ぴきのねことあほうどり』リトグラフ（色校用）1972年 こくま社蔵

絵本「11ぴきのねこ」シリーズで知られる漫画家・馬場のぼる。青森県三戸町に生まれた馬場は、戦後、漫画家として活躍する一方、絵本作家としても活動しました。1967年に刊行された『11ぴきのねこ』（こくま社）は、今でも世代を超えて愛されています。

本展では、絵本や漫画の原稿、馬場が描きためたスケッチブックなどに加え、幼少期や青年期の作品、楽しむのために制作した絵画や立体作品のほか、馬場を取り巻く交友関係も合わせて紹介します。

馬場のぼるの多彩な魅力をまるごとお楽しみください。

会期 2023年 7月14日(金) — 9月4日(月)

観覧料 一般 600円 小・中学生 300円

※各種割引についてはお問い合わせください。

没後100年 さまよえる有島武郎展



2023年は、有島武郎の没後100年に当たります。有島武郎は、鹿児島県出身の官僚で実業家の父を持ち、代表作「或る女」「生まれ出づる悩み」「カインの末裔」など、数々の名作を生み出した作家です。

本展では、常に「何をなす可きか」に苦悩し逡巡した有島武郎の激動の人生を、豊富な資料で辿るとともに、有島が作品に込めたメッセージを読み解きます。

会期 2023年 10月27日(金) — 11月27日(月)

観覧料 一般 600円 小・中学生 300円

※各種割引についてはお問い合わせください。

向田邦子のはじまり ～ライフワークとなった「だいこんの花」～



脚本家・向田邦子は、テレビドラマの世界を築き上げた一人といっても過言ではありません。山田太一や倉本聰などの脚本家と同時期に活躍し、ホームドラマ全盛期を支えた向田は、多くの脚本家の憧れとなっています。

本展では、この向田邦子の脚本家人生のはじまり、そして、ライフワークとなったテレビドラマ「だいこんの花」を中心に、テレビドラマの世界が変貌を遂げる今、向田ドラマの新たな魅力や視点を探ります。

会期 2023年 11月1日(水) — 2024年 1月22日(月)

観覧料 一般 300円 小・中学生 150円

※年間パスポートでもご覧いただけます。
※各種割引についてはお問い合わせください。

没後30年 山口誓子展（仮称）



鹿児島にルーツを持ち、近代俳句に大きな足跡を残した俳人・山口誓子（1901-1994）。中学時代を過ごした樺太を題材にした句で「ホトトギス」の新鋭として頭角を現した後、大阪の住友合資会社に勤務しながら都会的な新しい素材を使った句や連作俳句を発表し、新興俳句運動を牽引しました。戦後は、「芸術ではなく芸である」と批判された俳句の復活を志して「天狼」を主宰。「朝日新聞」の俳壇欄の選者も長く務め、昭和俳壇に貢献しました。92歳で没するまで創作者として真摯に俳句と向き合った誓子。本展では、2024年3月に没後30年を迎える山口誓子の生涯と作品を辿ります。

会期 2024年 1月25日(木) — 3月25日(月) ※予定

観覧料 一般 300円 小・中学生 150円

※年間パスポートでもご覧いただけます。
※各種割引についてはお問い合わせください。